



ほどよい距離で見守る

副校長 田端 国弘

猛暑の夏が来ます。6月には、台風2号は上陸はなかったものの梅雨前線に影響を与え、6月1日～3日にかけて沖縄から関東の太平洋側で大雨が発生し、豪雨や川の氾濫が発生しました。梅雨が明けると、暑い夏がやってきます。

世界気象機関は、「地球の気温が未知の領域に入る」と警告しています。地球温暖化は、私たちの生活にすでに多大な影響を及ぼしています。「気候変動は未知の領域に入った」と言われるだけに、気象庁でも予測が難しくなっているのが実情です。

熱中症対策だけでなく、急な雷雨、ゲリラ豪雨など予測されることを把握して、命に関わる適切な対策を行い、学期末を迎えようと思います。

先日の白小子どもまつり、参観保護者会には、たくさんの方に来ていただきありがとうございました。実際に子供たちの活動を見ていただき、保護者会も有意義なものになったのではないかと思います。また、白小子どもまつりには、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。

- ・3年ぶりに見学しましたが子供たちの活気にあふれていました。達成感に満ちた一日でした。
- ・変わったなと思うところは、6年生がPCを使っていてすごいなと思いました。
- ・開会式での子供たちの姿を見たとき涙が出そうになりました。
- ・子供たちが楽しそうに参加している姿をたくさん見ることができました。当番をしている子たちも責任をもって、自分の役割をして、感心しました。来年のことを家族での話題にしています。
- ・子供たちの情熱、工夫、思いが感じられ、「楽しさ」だけでは、成立しなかったであろう計画性等も感じることができ、大変な意義を感じる事ができた。

白小子どもまつりでは、以下の2つをねらいとしています。

「異学年の児童とかかわる活動を通して、望ましい人間関係を形成するとともに、学校への所属意識を高める。」

「よりよい子どもまつりにするために学級や学年で話し合ったり、友達と協力したりすることを通して、望ましい集団としての達成感を味わい、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。」

子供たちは、大きな行事を経験することを通してどんどん成長していきます。指示が多くなればなるほど、子供たちは自分で考えることをしなくなり、指示待ちの姿勢になりがちです。言われたことはできるかもしれないが、自分たちで何とかしようとする姿勢がなかなか備わらなくなる心配が出てきます。

子供たちだけに任せると、時には当然トラブルが起きたり、悩んだりすることも出てきます。でもその時こそが、子供たちに自分たちで解決しようとする力を身に付けさせるための絶好のチャンスなのです。白糸台小の教職員は、「子供たちの様子をほどよい距離で見守る。」ことを意識しています。もちろん、安全や命に関わることには、教師の早急な指導が必要なことはいまでもありません。ご家庭での保護者の方のわが子への接し方にも相通じる所があるかと思います。この夏に様々な挑戦をさせてください。